



平成 29 年度 海洋水産資源開発事業 ＜定置網：高知県鈴地区＞の調査結果概要



調査船：鈴丸（9.91 トン）

調査期間：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

調査海域：興津岬から井ノ岬にかけての高知県黒潮町
鈴沖合海域、および土佐湾海域

調査の目的

鈴共同大敷組合（高知県幡多郡黒潮町鈴：図 1）を調査地とし、乗組員の高齢化、新規就労者確保問題を解決するため、作業の省力化、漁獲物の価値向上、沖出し想定位置漁場の評価を実施し、利益の増大を目指した新たなビジネスモデルを提案する。

本年度調査の主な成果等

- 対象資源に関する調査は、漁獲物の季節別体長組成の把握を中心に実施した。周年漁獲されるマアジの月別尾叉長分布（図 2）では、3 月頃から 6 月まで尾叉長 90mm 未満の小型魚が出現することが判明した。この小型サイズのマアジは、南蛮漬け等の加工原料となることから一定程度の価格が形成されていた。一方で、そのアジと同時に混獲される小型サイズのイワシ類およびサバとの選別が課題である。資源の有効活用のためにも今後検討が必要である。
- 操業に関する調査では、網の改良に資する情報を得るために、超音波発信器を用いて定置網周辺における魚類の遊泳行動の追跡調査を実施した。対象魚種はマアジ、ブリとし、魚の背びれの下に超音波発信器を外部装着し、垣網の北側および南側、運動場、第二箱網の四カ所から放流した。垣網の北側よりマアジ（24cmFL）を放流した結果の一例では、垣網に沿って遊泳し、登り・運動場の沖側で往復した後、第一箱網を通過して、第二箱網に入網し、6 時間程度とどまった後に朝の操業で漁獲された（図 3）。今後は潮流の影響も考慮して、定置網に対する魚の行動の関係を把握し、改良網等の検討を行った。
- 漁獲物の価値向上に関する調査は、高知県に委託し、県内外での販路拡大に向けた取り組みを中心に実施した。大都市圏への直接出荷や飲食店への直販、高知市での鈴大敷漁獲物の認知度向上、脱血神経締めなどによる漁獲物の鮮度保持の取り組み等を行った。その結果、これらは販路拡大に一定の効果

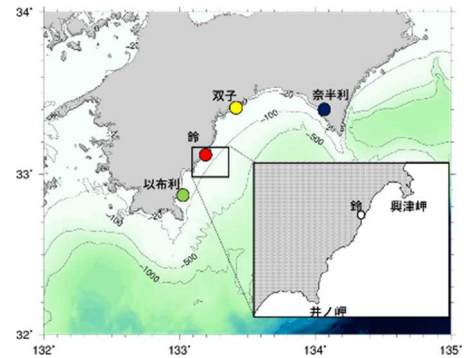


図 1 調査海域

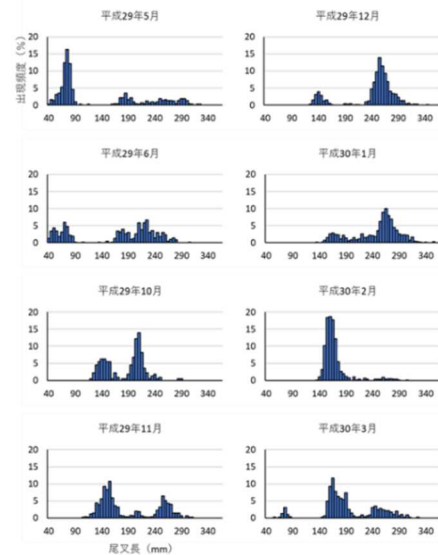


図 2 マアジの月別尾叉長分布

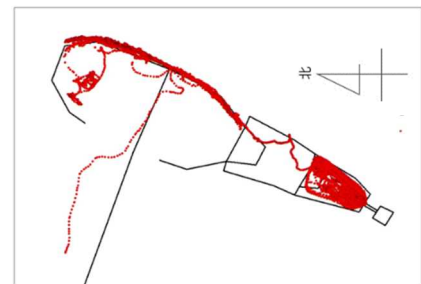


図 3 2018.2.20 16:07 に 4 号ブイで放流したマアジ(24 cm FL)の遊泳記録

を及ぼす可能性のあることが判明した。さらに本年度は、漁獲物の差別化を図る取り組みとしてマアジの季節別脂肪含有量を測定した。その結果、春から夏に向けて脂肪量が増加している傾向にあることがわかった（図4）。ブランド戦略等について検討が必要と思われた。

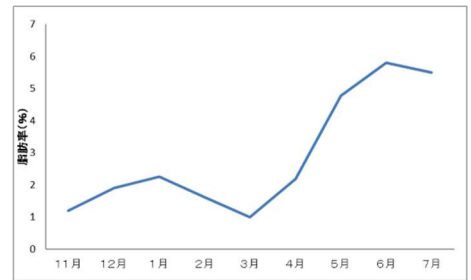


図4 マアジの脂肪含有率の推移（H29年11月～H30年7月）